

令和7年度 社会教育情報誌

「きぼっど」 南薩の社会教育



協浦古琴節
〔指宿市郷土芸能〕



令和8年3月発行

南薩地区社会教育振興会

家庭の教育力の向上

南薩地区PTA役員等研修会

〔令和7年6月26日(木):南九州市ひまわり館〕

子供の減少、生活スタイルの変化、多様化する考え方などの社会変化が、PTAの在り方にも大きな影響を与えています。そこで、PTAの在り方を学ぶ機会として、公益社団法人日本PTA全国協議会会長 太田敬介 氏を講師に、研修会を実施しました。

講演では、PTAの歴史からPTAの本質を学び、そのことを踏まえて今の時代に合ったPTAの在り方について学びました。「ルールを守ることが目的になっていないか!」、「平等でなくてもよいのでは!」、「できる人が支える!」といったお話を、熱心にメモを取りながら聞き入る姿に、参加者のPTA活動に対する強い思いを感じました。

協議及び情報交換では、具体的な学校の取組などをもとに、活発な意見交換が行われました。講話の内容を受けて、これからのPTA活動の進め方などについても話題になり、改めて学ぶことの大切さを感じた研修会になりました。



協議及び情報交換

南薩地区PTA会員等教育講演会 兼 人権教育ブロック別指導者研修会

〔令和7年10月29日(水):枕崎市サン・フレッシュ枕崎〕

日本ペプトーク普及協会認定講師の 川添まり子 氏を講師に、「豊かな人間関係を育む『言葉の力』」の演題で、人権教育ブロック別指導者研修会を兼ねて開催しました。

「シンプルでポジティブな言葉を使ったコミュニケーション」、「自分や仲間に使う言葉を変えるだけで、家庭や学校、地域は人が幸せに過ごせる世界に変わる」、「人をサポートすることは、自分を大切にすることにつながる」といったお話に参加者は引き込まれた様子でした。

「否定的な言葉をポジティブ変換することで、自分自身を前向きにできるし、相手にもポジティブに楽しく行動的なエネルギーを与えることができる」というお話に共感し、とても感動をしました。、「日頃の自分を反省しました。今日からペプトークを実践してみます。」など、日頃の自分を振り返る内容や学びを前向きに捉えた感想が多数寄せられました。「家族だけでなく、地域や職場での関係づくりにも生かしたい。」との感想もありました。

昨年の要望を受けて、これまでの午後開催を午前開催にしました。「参加しやすくなった。」など、期日・日程等については概ね良かったとの評価をいただき、当日は200人を超える参加者がありました。



【講師:川添氏】

県PTA活動研究委嘱公開

〔令和8年1月24日(土):南さつま市ふれあいかせだ いにしへホール〕

「ふるさとを愛し 未来へはばたく 心豊かでたくましい 子どもを育てるPTA活動はどうあればよいか」を研究主題に、鹿児島県PTA活動研究委嘱公開南さつま市大会が開催されました。

南さつま市チアリーディングクラブ「サンディーズ」による演技の後、加世田小学校・金峰学園PTAからそれぞれ活動発表がありました。PTAを取り巻く環境が変化中、組織改革や地域との繋がりを深める活動など、他のPTAの参考になる内容がたくさんありました。そして、PTAの在り方やその存在意義を改めて考える機会になりました。

オフィスバーバラ代表 バーバラ植村 氏の「前向きに生きるために」と題した講演では、子どもとの接し方や心のもち方など、多くのことを学びました。そして、ユーモアを交えたお話に参加者も笑顔になり、会場全体が何事にも前向きに取り組むたいという雰囲気になっていました。



【チアリーディングクラブ「サンディーズ」】

《加世田小学校PTA研究テーマ》
みんなで育てよう 心豊かでたくましい加世田っ子 共に育ち 共に学び 未来をつくるPTA活動を目指して

【加世田小学校PTA会長:日置氏】

《金峰学園PTA研究テーマ》
PTAとCSが共に協力し、義務教育学校の特性を生かした、心豊かな金峰の子どもたちを育てるPTA活動を目指して

【金峰学園PTA会長:茶藪氏】

地域の教育力の向上

南薩地区社会教育振興会表彰式・総会

〔令和7年4月23日(水):南九州市知覧文化会館〕



【前列:受賞の方々】
【後列:振興会役員】



【南九州市連合青年団団長:折田氏】

総会に先立って、長年にわたり地域の活性化や子供たちの健全育成などに御尽力いただいた、個人4人と2団体へ感謝状を贈呈しました。受賞者を代表して、「南九州市連合青年団」の折田裕斗氏から、受賞への感謝の言葉と「これからも地域のために若い力を発揮していきたい。」と頼もしいお言葉をいただきました。

今年度、表彰を受けられたのは、次の方々です。

- 栄村 道博 様 (枕崎市)
- 下舞 等 様 (指宿市)
- 松阪 律子 様 (南さつま市)
- 加世田サイエンスクラブ 様 (南さつま市)
- 南九州市連合青年団 様 (南九州市)

表彰式後の総会では、令和6年度の事業反省と令和7年度の事業計画など協議しました。

第1回南薩地区社会教育担当者研修会

〔令和7年7月3日(木):南九州市ひまわり館〕



若手グループ



経験者グループ

研修Ⅰでは、教育事務所や市町村の教育委員会で社会教育行政の推進に長年尽力してこられた喜岡達也氏に「社会教育でウェルビーイングを！～地域と人のしあわせを育む社会教育の力～」と題して、講話をしていただきました。

「社会教育は、『学び、居場所、社会参画の提供』、キーワードは『つなぐ』、そして「社会教育は『誰かのための幸せをつくる仕掛け人』」など、とても心に残る講話でした。これからの社会教育行政の推進にたくさんの示唆をいただきました。

研修Ⅱでは、行政経験年数等を考慮したグループ分けを行い、課題を変えて協議しました。若手グループは、業務推進上の悩みや取組についての意見交換を通して、業務への意欲を高めることができました。経験者グループでは、各種社会教育関係の行事や「親子手帳」について、成果や課題について率直な意見を出していただき、8年度に向けた有意義な意見交換になりました。



【講師:喜岡氏】



南薩地区自治公民館経営研究会

〔令和7年8月21日(木):南九州市知覧文化会館〕



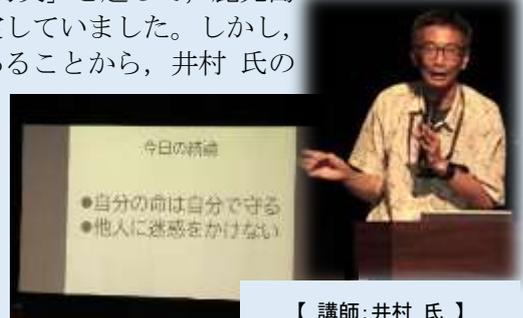
【事例発表:茶蘭氏】

公民館活動の今日的課題を共有し、その解決に向けて協議し、地域の活性化に役立てることを目的に実施しました。

事例発表を、南さつま市自治公民館連絡協議会事務局の茶蘭幸佳氏にさせていただきました。田布施地区公民館で実施した防災訓練、子供たちの元気な声を取り戻す活動など、「地域を元気に」と公民館が中心になって活動している様子がよく分かる発表で、参加者の参考になる取組がたくさんありました。

近年、自然災害が身近で頻繁に起きていることを踏まえて設定した「地域防災まちづくり」のサブテーマのもと、「一人ひとりが考える防災」と題して、鹿児島大学共通教育センター地球科学准教授井村隆介氏の講演を予定していました。しかし、突然の台風接近による急激な天候悪化で帰宅困難になる恐れがあることから、井村氏の御指導もあり予定より短い時間で講演を中止にしました。短い時間でしたが、災害の危険がある際の心構えなど、防災の専門家の話を聞いた貴重な時間でした。最後に示された「自分の命は自分で守る。」「他人に迷惑をかけない。」という言葉の重みを実感した1日になりました。

出席者からは、今回の講演を再度実施して欲しいとの声が多数ありました。



【講師:井村氏】

南薩地区社会教育委員研修会

〔令和7年10月17日(金):南九州市知覧文化会館〕



【講師:植林氏】

社会問題になっているスマホ(SNS)などのネットトラブルの現状と未然防止を学ぶ機会として講話を実施しました。鹿児島県安心ネットサポーターとして活動されている植林伸洋氏の具体的なお話に、危険性と対策の必要性を強く認識しました。参加者からも、「危険性を認識できた。対策を取らなければいけない。」「社会教育に関わる自分たちもしっかりと考えていきたい。」「このように学ぶ機会を増やしていきたい。」など、危機感と対策の必要性を述べた感想が多く寄せられました。

後半のグループ協議では、来年度からの研究テーマや「地域の素地や人材を生かした学校・地域との連携」について協議をしました。所属の異なる4人の少人数グループに編成することで、活発な協議が行われました。「南薩は魅力が多い。どのように取り上げ、どのように生かすか考えたい。」「4人の職種が様々だったので、日頃聞くことのない話を聞くことができてよかった。」「参加・協力したくなる工夫や手立てが必要との考えでまとまった。」などの意見が出され、とても参考になったとの感想が多く寄せられました。

講話や協議の感想から、南薩地区の社会教育の充実に資する研修会になりました。



グループ協議

青少年の健全育成

南薩地区子ども会大会, 育成者・指導者研修会 及び 枕崎市子ども会大会

〔令和7年6月21日(土):枕崎市立立神中学校体育館〕



受賞団体

- 金山校区子ども会(枕崎市)
- 泉町・新町子ども会(枕崎市)
- 川尻地区子ども会(指宿市)
- 睦杭子ども会(南さつま市)
- 南九州ジュニア・リーダークラブえい「からいも会」(南九州市)

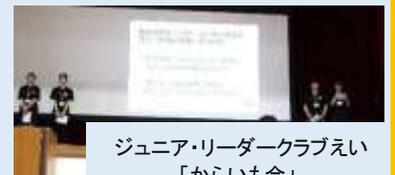


枕崎市子ども会代表
歓迎のこたば

4市の子どもたち、育成者指導者が枕崎市に集い、楽しく充実した時間を共有しました。令和7年度南薩地区子ども会活動表彰、活動発表、親子で楽しむマジックショーと会場は笑顔で溢れました

とても工夫された活動発表は、会員数が減る中で元気に生き生きと活動している様子が分かり、元気をもらいました。そして、他の子ども会の参考になる活動がたくさんありました。育成者・指導者研修は子どもも一緒に、

OTEKI(樫木)氏にマジックを教してもらいました。子どもとの活動は、これからの活動に生かされていくと思います。



ジュニア・リーダークラブえい
「からいも会」



泉町・新町子ども会



【講師:OTEKI氏】



川尻地区子ども会



睦杭子ども会

南薩地区子ども会ジュニア・リーダー研修会

〔令和7年10月25日(土):南九州市知覧文化会館〕

地区内の中・高校生が一同に集い、グループ活動や話し合い活動などを通して、地域のリーダーとして活動する中・高校生を育成するとともに交流の場として研修会を実施しました。

参加者間の緊張を和らげ、コミュニケーションを円滑にするアイスブレイキングから研修会をスタートしました。九州大会・JLC活動紹介を聞いた後、南九州市耕地林務課の田原美幸氏の指導で南九州市特産の知覧茶を使った「美味しい知覧茶の淹れ方」を体験しました。日頃急須を使うことのない子どもたちには、とても新鮮な感覚だったようです。そして、南九州市ユース・リーダーを中心に「ジュニア・リーダーとは?」と題したグループワークを行い、リーダーについて考えました。知覧特攻平和会館では語り部の方の講話や館内見学を通して平和の尊さを学びました。最後の研修では、課題に対する一人一人の考えを交流しました。そして、他者を理解するためのコミュニケーションの大切さを学びました。

研修会でたくさんのことを学んだジュニア・リーダーのこれからの活動がとても楽しみです。



【講師:田原氏】



活発なグループワーク

南薩地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会

〔令和7年12月6日(土):南さつま市ふれあいかせだ〕



進行役の高校生

「鹿児島県優良少年少女団体表彰」の伝達式後の安全教育研修では、講師の永田正人氏の指導で身近にある危険への気付きとその回避の仕方を学びました。



安全教育研修
(グループ協議)



【鹿児島県優良少年少女団体表彰】

- 塩屋子ども会(枕崎市)
- 高野原子ども会(指宿市)
- 本町東区子ども会(南さつま市)
- 坂上・川原園・奥園子ども会(南九州市)

創作活動のペーパーナプキンの柄や絵を石けんに切り貼りするデコパージュでは、親子で楽しそうに取り組む姿がたくさん見られました。そして、完成したお互いの作品を見ながら笑顔で会話するが印象的でした。

進行役の高校生も、大会の雰囲気づくりにとっても貢献してくれました。



創作活動(デコパージュ)

地域文化の継承・発展, 文化財の保存・活用

南薩地区文化財保護審議会委員等研修会

〔令和7年5月28日(水):指宿市時遊館COCCOはしむれ, 他〕



【研究・事例発:牛山氏】

令和7年度文化財重点施策の県教育庁文化財課の講話の後、枕崎市文化財保護審議会会長 牛山好治 氏に事例発表をしていただきました。「枕崎における一向宗・キリシタン禁制及び廃仏毀釈の名残りについて」と題した発表は、丹念に資料を分析され、そこから読み解かれる内容で、とても興味深いものでした。



旧正龍寺跡の「墓石群」にて

現地研修視察では、旧正龍寺跡に残る墓石群を訪れました。山川石の研究をされている指宿市教育委員会生涯学習課文化財係主査 松崎大嗣 氏から、山川石の特徴やその見分け方、墓石について詳細な説明を受けました。きれいに整備された旧正龍寺跡に静かにたたずむ墓石群は、圧巻の存在感がありました。そして、墓石などに残る、廃仏毀釈の痕跡に歴史の重さを感じました。



南薩地区指定文化財巡視視察

〔令和7年11月12日(水):歴史交流館金峰, 他〕



「舟つなぎ石」を前に

南さつま市内の指定文化財を、生涯学習課文化係主査 橋口亘 氏の詳細な説明を受けながら巡回視察を実施しました。

「舟つなぎ石」の視察では、「日本近世生活絵引」の絵図と比較しながらの説明で、「舟つなぎ石」ができた時代の交易の様子や現代の地形との違いを知ることができました。

南さつま市内の「田の神」の中で唯一県指定を受けている「山崎の田の神」は、右手にメシゲ、左手に鍬風の物を持つ姿がしっかり残っており、農耕神としての存在感を強く感じることができました。



宮崎の「田の神」を前に

文化財を保存し、次の世代へ繋いでいくことの必要性を新たにする視察になりました。

「歴史交流館金峰」には、地域に残る古代・中世・近世の品々が展示され、この地域の入り海と交流が育んだ歴史と文化を垣間見ることができました。



「歴史交流館金峰」にて



家庭の教育力の向上を目指した取組

枕崎市では、家庭の教育力の向上をめざす重点指導項目として、「家庭学習 40・60・90・120 運動」、「ノーメディア・メディアコントロールの徹底」、「親子 20 分読書の充実」に取り組んでいます。...

また、家庭教育学級として参加ができるように、「生涯学習県民大学講座」や「人権問題啓発研修会」等を開催し、保護者の学ぶ機会をつくるようにしています。

さらに、保護者の悩みや児童生徒の課題を知るため、「家庭での過ごし方アンケート」を年2回全ての小・中学校の保護者を対象に実施しています。

アンケートの集計結果と結果分析や課題改善のヒントを全ての保護者に返して、家庭生活や家庭学習への関心が高まるようにしています。

他にも、今年度 11 月に行われた枕崎市 P T A 活動研究委嘱公開では、市内小・中学校の保護者による意見交換会を初めて実施しました。...

本市では、このように、さまざまな活動を通して、家庭の教育力の向上を目指しています。



【 まくらざき家庭教育手帳から 】



【 市PTA活動研究委嘱公開の意見交換会の様子 】

地域の教育力の向上を目指した取組

枕崎市の学校運営協議会は、令和2年度から枕崎小学校と枕崎中学校で先行実施し、その取組を参考に今年度から市内全小・中学校でスタートしました。...

また、地域学校協働活動は、令和2年度から本格的に開始し、授業やその他の教育活動に地域の方々の協力を得て充実を図り、学校も地域に協力をするなど双方向の連携・協働を体系的に行っています。...

今年度から学校運営協議会が始まった学校が多いことから、今後は学校と地域が目標を共有する「地域とともにある学校」を目指し、学校運営協議会で熟議した取組や課題の改善策などを、地域学校協働活動と連携・連動させながら実施していきます。



【 枕崎市コミュニティ・スクール研修会の様子 】



【 「地域学校協働活動だより」から 】



家庭教育の推進

指宿市では、地域の家庭教育向上のためのお手伝いをさせていただくことを目的に、「子育てに不安や悩みを抱えている保護者に寄り添い、『できる人が、できる時に、できる範囲』で」という考えのもと「子育てサポーター」を養成しています。

5月28日に「子育てサポーター養成講座」を開催し24人が受講しました。認定心理士や障害児福祉サービス事業所の所長、地域での子育て支援活動者を講師に迎え、子育て支援に興味のある方だけでなく、子育て当事者の方の学びになるプログラムで構成しました。受講者からは「もう一度子育てしたいなあと思うくらい素晴らしい講座でした」、「今悩んでいる保護者にも知ってもらいたい内容ばかり」といった声がありました。先輩子育てサポーターによる無料託児サービスは8の方が利用され、子育てサポーターが保護者の学びを支援することを体現した講座となりました。

また、子育て世代が気軽に集まり、子育ての楽しさや悩みを共有しながら、学びを得ることを目的に子育てサロン「子育てひろば」を通年開催しています。令和7年度は、親子の体験や保護者同士のつながりづくりを目的に、子育てサポーターの協力を得ながら、以下のイベントを企画しました。

【子育てひろば みんなでつくる いぶすきアート】

「子育てひろば」に遊びにきた子供たちの手形足形で大きなイッシーを作り上げ、11月29日開催日の指宿市生涯学習フェスティバルで展示しました。



【子育てひろば みんなでつくる いぶすきアート】

【0歳からの音楽会】

0歳から参加できる弦楽アンサンブルの無料コンサートで、コンサートの前後はおもちゃのある部屋で過ごせるようにし、子供の様子に合わせて出入りできるよう、指宿市民会館のエントランスで開放的な雰囲気の中実施しました。

(7月30日及び12月24日の2回)



【0歳からの音楽会】

令和7年度時遊館 COCCO はしむれ企画展

山川石クエスト！－黄色い墓石がつかない薩摩・奄美・琉球－

指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれでは令和7年度企画展「山川石クエスト！－黄色い墓石がつかない薩摩・奄美・琉球－」を開催しました。これまでの研究により、鹿児島藩主専用の墓石」とおぼろげながら考えられてきた山川石。徳川十三代将軍家定の御台所（将軍の正室）となった篤姫を輩出した一門家今和泉島津家でさえ、山川石によく似た黄色凝灰岩「池田石」を用いていたので、「山川石は島津宗家（本家）限定の特別な石」と思うのも無理はありません。しかし、時遊館COCCOはしむれの学芸員たちは「では、指宿市内にある黄色い墓石は山川石？ 池田石？ どっち？」と疑問をもつようになりました。指宿市内のほぼ全ての黄色い墓石は山川石製と教えられてきたので、これまでの前提が一気に変わってしまうこととなります。

そこで、今回の企画展では、指宿市内に残る200箇所の墓地をすべて調査し、山川石製の墓石がどこに、どれぐらい、どのような種類が残っているのかを徹底的に調べることにしました。結果、指宿市内には2,600基以上の墓石が残っていることが明らかになりました。さらに、奄美群島をはじめとする薩南諸島にも目を向け、調査を行いました。すると、奄美群島を中心に、遠くは沖縄本島まで運ばれていることが分かり、大規模な流通の実態が分かってきました。そして、多様な階層・地域の人々に好まれた石であることも分かってきたのです。これらの成果をまとめた企画展図録も刊行されています。



【居並ぶ山川石の数々】



地域と連携した「鬼火焚き」

益山校区では、例年、無病息災や家内安全を願い鬼火焚きが行われます。学校外活動塾「わくわく塾」が中心となって運営する行事で、益山校区元気づくり委員会の事業の一つです。

今年も12月に、益山小学校5年生と保護者、PTA執行部、地域有志の方々を中心にあくさんの人が参加して準備をしました。みんなの協力により2時間余で大きなやぐらができあがりしました。そして、令和8年1月10日(土)が鬼火焚き本番でした。点火前に年男・年女の益山小学校5年生が、一年の目標と将来の夢を発表しました。落ち着いてはっきりとした声で発表する様子とその内容に、参加した人たちは感心していました。



【 鬼火焚き準備 】

点火すると、みんなで準備したやぐらから勢いよく炎が上がり、「パチパチ」、「ターン」、「ボン」と竹の破裂音が寒空に響き真っ赤な炎に包まれました。気温が低くとても寒い中でしたが、振る舞われたぜんざいや甘酒の温かさに包まれながら、1年の健康と安全を願う鬼火焚きとなりました。

学校外活動塾「わくわく塾」は、今後も地域の人材や関係団体と連携しながら、自然豊かな地域の素材を生かした体験活動で、心身ともに豊かな青少年の育成を目指して活動していきます。



【 将来の夢の発表 】



【 竹の破裂音で鬼も退散 】



【 ぜんざい・甘酒 】

“今こそ伝えたいこと” 戦後80年の平和学習

令和7年5月26日、南さつま市立坊津学園で「平和学習」が行われました。

神奈川県在住で、戦争の実態を伝える「語り部」として活動されている「高德えりこ」さんを講師に迎え、5年生から9年生62人が参加しました。高德さんは、ポプラ文庫『ユキは十七歳 特攻で死んだ』の表紙に写っている5人の少年のうち一人が伯父さんであったことが活動のきっかけになりました。特攻の実話を通し、平和について自分の考えをもつきっかけになってほしいという願いで活動されています。

5月に修学旅行(長崎)で平和学習を行った8年生は、高德さんの授業を通してさらに学びを深め、平和の尊さを実感することができました。その思いを6月に行われた学園祭で劇「平和を願って・・・」として発表し、「世界が平和になるための『あ・い・う・え・お』」や高德さんから学んだ「歴史は今につながっている」という言葉を引用し、発表をしめくりました。

戦後80年の節目の年、未だに紛争が起きている昨今、ニュースで信じられない光景を目にしている子どもたちにとって、平和の貴さや命の重さを感じ、平和について考えるきっかけになりました。



【 語り継ぐ戦争 】



【 今こそ伝えたいこと 】



【 学園祭「平和を願って・・・」 】

南九州市・北九州市子ども交流事業

令和7年7月29日(火)～31日(木)にかけて、本市と福岡県北九州市の小・中学生40人とボランティア10人が、2泊3日の共同生活を通して交流を深めました。

本事業は、隔年で互いの市を訪問し、両市の豊かな自然、歴史、産業について学びながら交流を行っています。

はじめは緊張していた子どもたちでしたが、レクリエーションやクイズ大会等を通じて親睦を深め、川辺仏壇の蒔絵技術を体験したり、本市特産の鶏卵工場を見学したりしました。夜の天体観測では満天の星空に感動し、全員が見入っていました。

3日目に訪問した知覧特攻平和会館では、特攻作戦の歴史的背景や当時の隊員達のことを語り部から学び、大切な人への想いや感謝の気持ちをポストカードに書きとめました。

また、両市のボランティアの高校生や大学生は、交流活動の企画や運営、小・中学生の班活動のサポートなどを行い、互いに協力して活動する姿は子どもたちの良い手本となりました。

今回の体験や交流を通して、両市の特徴や魅力を学ぶことができたのではないのでしょうか。今後も交流が続き、経験を活かしそれぞれの場で活躍することを願います。



【蒔絵体験】



【企業見学】



【茶畑での集合写真】

夏休み子ども見守り事業

夏休み期間中に市内3つの地区公民館にて、週に1日～2日、「夏休み子ども見守り事業」を行いました。

この事業は、地域学校協働活動として令和6年度から地域で子どもたちの健全育成を図ることを目的に始めました。

夏休みに一人過ごす時間が多い子どもがいるのではないかと、話し相手がいなくて寂しい思いをしているのではないかとという想定から、見守りや人との交流を目的としています。

小学1年生から中学3年生の子どもたちが各公民館に集まり、地域の方々に見守られながら、宿題や読書をしたり、ミニ工作やそうめん流し、パンやお菓子を作ったりなど、様々な体験活動を通して地域の方々との交流を図りました。子どもたちは友達や地域の方々とともに楽しそうに活動を行っていました。

今後も子どもたちにとって安心できる居場所を提供し続けていきたいと思えます。



【そうめん流し】



【プラモデル作り】

枕崎市

みちのしょうのうせいぞうじょいこう
道野樟脳製造所遺構

【令和3年10月5日：枕崎市指定】

樟脳を製造する製造用具(設備)は、カマド(竈)・釜・冷却水槽・通い筒から構成されています。

樟脳製造には、多くの水が必要であったため、道野の樟脳製造施設では道路(県道269号線)北側には貯水池(広さ約500平方メートル)を設置し、そこにいったん花渡川上流の水を引いて溜め、そこから道路の下を通して樟脳製造施設へ流す施設(暗渠)が作られました。この道路下の暗渠(水路)は、石で作っており、この暗渠(水路)に水を通して水車を回し、暗渠は施設内の竈近くを通して数個あるタンクに水が入るようになっていました。

道野の樟脳製造施設には、樟脳製造に必要な竈・釜・甌・冷却水槽・水車設置場・水路などが現在でも残っており、枕崎の近代化遺産として貴重なものです。



【道野樟脳製造所遺構(竈・釜・甌・冷却水槽・水車設置場・水路)の様子】

指宿市

しょうりゅうじあと ぼせきぐん
正龍寺跡の墓石群

【昭和56年10月6日：指宿市指定】

指宿市山川福元に所在する海雲山正龍寺跡は、約6,400年前の噴火によって形成された山川マール南部の標高約8メートルの山裾に位置します。寺が開かれた年代は不明ながらも明徳元年(1390年)に京都五山南禅寺の虎森和尚が再建したと伝えられます。虎森和尚が留学で中国へ渡ろうと山川で船を待っていた際、船便に恵まれなかったため京都へ帰ろうとしたところ、玉龍山福昌寺を開山した石屋真梁(せきおくしんりょう)による働きかけで正龍寺をつくり、虎森和尚を住職として迎えたそうです。近世において琉球貿易の玄関口として機能していた山川港を束ねる存在であり、学問的水準は高く、「薩摩文教の府」とも呼ばれました。

正龍寺は明治2年(1869年)の廃仏毀釈で廃寺となり、明治22年(1889年)には東本願寺の説教所が境内に創設され、明治43年(1910年)に現在の「正龍寺」へ移りました。旧正龍寺跡の仁王像は山川石製で、正龍寺の正門に安置されています。

正龍寺の寺域の復元は難しく、倒木・草木で墓地の実態は不明な部分が多かったですが、令和5年度から福元区と教育委員会の合同清掃で状況が次第に判明してきました。現存する近世・近代墓は500基を超え、多くが山川石製です。大型の墓が目立ち、特に海運業を営んだ海商やその親族が多いことが分かりました。河野家は五輪塔、佐々木家は宝篋印塔を代々使い、「家」を意識した配置とサイズの統一が見られます。佐々木家の宝篋印塔は復元総高が約2m40cmで、今和泉島津家初代忠卿の宝篋印塔とほぼ同じ高さです。今後、考古学的な調査を継続し、墓地の実態を明らかにしていく予定です。



【佐々木家:宝篋印塔】

南さつま市

しまづたかひさ はいづか
島津貴久の灰塚

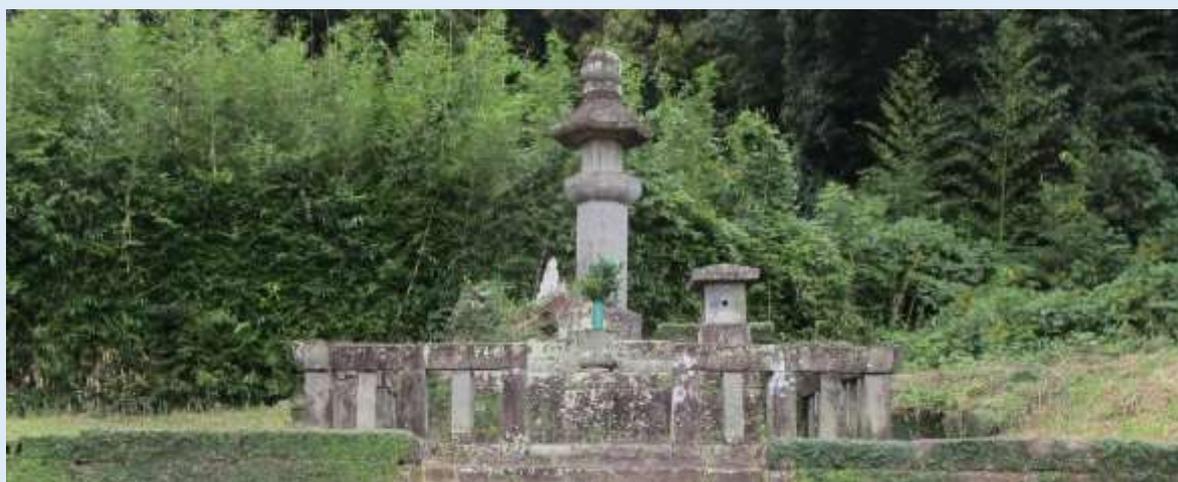
【昭和 48 年 12 月 20 日：南さつま市指定史跡】

島津家 15 代太守として知られる戦国武将「島津貴久」(1514～1571)は、伊作島津家の島津忠良の嫡男として、南さつま市金峰町田布施の亀ヶ城で生まれたと伝えられています。

のちに島津本家を継ぐこととなり、父親の忠良や、息子の義久・義弘・歳久・家久らとともに、三州(薩摩・大隅・日向)の統一に向けて尽力し、戦国大名島津氏の隆盛をもたらしました。

現在、南さつま市加世田武田の竹田神社の六月燈の際に踊られている土踊(県指定文化財)は、貴久が元亀 2 年 6 月 23 日に加世田の御屋形で亡くなったことに因み、かつては貴久の命日である旧暦の 6 月 23 日にあわせて弔いのため踊られていました(現在は新暦の 7 月 23 日に踊られています)。

加世田武田の愛宕下に所在する釈迦堂跡の墓地には、「大中良等庵主」と刻まれた貴久の「灰塚」(大中公御灰塚)と呼ばれる大きな石塔が現存し、その威厳を今に伝えています。



【釈迦堂跡の墓地に残る島津貴久の灰塚】

南九州市

きゅうちらんひこうじょうえんたいごう
旧知覧飛行場掩体壕

【令和 7 年 6 月 23 日：南九州市指定】

掩体壕とは、太平洋戦争末期に本土空襲が激しくなる中、飛行場に駐機する軍用機を上空の敵機から守るために作られた防空壕です。

昭和 19 (1944) 年の知覧飛行場周辺には、屋根を伴わない U 字型の土塁からなる掩体壕が約 60 基築かれたほか、土塁を伴わないものや、木製屋根を取り付けたものなど約 90 基以上あったとされています。

現在、土塁でできた掩体壕が 10 基程現存し、その一つが戦後 80 年を迎えた令和 7 年、新たに市指定文化財となりました。この掩体壕は屋根のない U 字型の土塁でできており、幅約 29m、奥行約 24m、高さ約 2.5m あります。また、周辺から「タコツボ」と呼ばれる人員用の壕も 5 基見つかっています。

この場所は、令和 3 年 (2021 年) に掩体壕公園として整備されており、特攻基地であった知覧飛行場の歴史を伝える重要な戦跡として、保存・活用されています。



【旧知覧飛行場掩体壕】